

国境なき医師団 現役高校生と考える、国際人道援助 ～私たちに何ができるのか～



高校生対象
オンライン講演会

3月13日(土)
14:30-16:00

南スーダン：野外で診療した患者さんと同僚と＝2014年撮影 © MSF

紛争地の人たちはどんな生活を送っているの？国境なき医師団で医療者として働くには？

国境なき医師団と昭和女子大学附属昭和高等学校、昭和デジタルスクエアがコラボレーションのもと実施する、高校生を対象とした2回シリーズのオンライン講演会。

第二回は手術室看護師の白川優子が、紛争地に住む人びとの暮らしや、人道危機の現場で若い世代が直面する現実について、自身の経験を語ります。また、看護師や国境なき医師団を目指した理由など、自身のキャリアについてもお伝えします。クイズやワークショップを取り入れながら、現役高校生の皆さんと一緒に命について考える90分間のオンライン講演会に、ぜひご参加ください。

第二回 看護師が語る紛争地のリアル。国と命の境目で。

(国境なき医師団 手術室看護師／リクルーター 白川優子)

開催日時：2021年3月13日(土) 14:30～16:00 オンライン開催

参加費：無料

お申し込み：[こちら](#)よりお申込みください(高校生以外でもお申込み可能です)

申込締切：2021年3月12日(金) 17:00

配信ツール：Zoom Webinar

(お申込者には当日朝11時頃に参加用URLをメールでお送りします)



↑詳細・お申込み

共催：昭和女子大学附属昭和高等学校、国境なき医師団、昭和デジタルスクエア

講演内容：

- 昭和女子大学理事長・総長 ご挨拶(予定)
- シチュエーションテスト 日常感覚で答えるクイズ
- 紛争地での援助活動経験
- ジレンマワークショップ「あなたが国境なき医師団のスタッフなら」
- なぜ看護師・国境なき医師団を目指したか
- 質疑応答(約20分)

講師プロフィール

国境なき医師団 手術室看護師／リクルーター 白川 優子（しらかわ ゆうこ）

7歳の時にテレビで見たMSFに感銘を受ける。高校卒業後、4年制（当時）の坂戸鶴ヶ島医師会立看護専門学校に入学。卒業後は埼玉県内の病院で外科、手術室、産婦人科を中心に約7年間看護師として勤務。2003年にオーストラリアに渡り、2006年にオーストラリアン・カソリック大学看護学部を卒業。その後約4年間、メルボルンの医療機関で外科や手術室を中心に看護師として勤務。2010年、MSFに参加。2018年7月、初の著書『紛争地の看護師』（小学館刊）を上梓。2018年10月よりMSF日本事務局の人事部にて海外派遣スタッフの採用業務に従事。



© MSF



シリア：現地の文化を尊重し、スカーフを被って手術にあたる白川看護師 =2017年撮影 © MSF

注意事項：

- ※ワークショップで発言する場合は、カメラと音声をオンにさせていただきます。あらかじめご準備ください。
- ※講演会の録画は後日インターネット上に公開される可能性があります。ご了承の上、ご発言ください。
- ※質問はチャットへの書き込みにて受け付けます。時間の都合上、すべてのご質問にはお答えできかねる旨、ご了承ください。

講師派遣について：

国境なき医師団では、若い世代に世界で起きている人道危機を伝え、行動を起こすきっかけとするため、小学生向けの教育プログラムや、中学校・高校へ海外での援助活動経験者を講師として派遣する、講師派遣活動に力を入れています。

詳しくは[こちら](#)をご参照ください。